

千葉 ライフ・ライン ニュースレター No.111

【発行】千葉県テレビ伝道協力会
〒260-0021 千葉市中央区新宿2-8-2
CCCビル 「千葉ライフ・ライン係」
TEL 043-247-3058 FAX 043-247-3072
E-mail: chiba@life-line.tv
ホームページ <http://chiba.life-line.tv/>
郵便振替: 00110 - 8 - 579669

【協力】財団法人 太平洋放送協会(PBA)
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台
2-1 OCCビル
TEL 03-3295-4921 FAX 03-3233-2650
E-mail: mail@pba-net.com
ホームページ <http://www.pba-net.com>
でんわ世の光 03-3291-9061

「伝えずにはいられなかったこと」

日本ナザレン教会 成田教会 牧師 高橋 憲司

ヨハネ福音書 20:24-31

はじめ弟子たちの元に復活の主がいらっしゃった時、弟子たちはユダヤ人たちから逃げ、部屋の中に閉じこもっていました。その時トマスは一緒にいませんでした。その後今度はトマスが弟子たちとともにいる時に再び主が来られました。

この時に語られた「見ないのに信じる人は、幸いである」(29節)は、わたしたちへの祝福のことばです。使徒たちの後の時代のキリスト信者は、皆「見ないで信じている者」だからです。主の復活を信じるとは「イエスと神とのつながりは死によって断ち切れなかった、イエスとわたしたちとのつながりも死によって断ち切られない」と信じることです。主の復活を信じることは「愛」を信じる、というのと似ています。「目に見えないものは信じない」と言い張ることも可能かもしれませんが、だから「愛など信じない」と言うのだとしたら…。「信じる」とは「知る」「認識する」の延長線上にあるものではなく、わたしたちの生き方の根幹にかかわることなのです。

ヨハネは、「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、信じてイエスの名により命を受けるためです」と書きました。この「あなたがた」とは、復活の主に出会った弟子たち以降、この福音書を読むすべての読者のことです。この福音書が紀元1世紀末に書かれたとして1900年もの間、一体、何人の人が読んできたか分かりません。そして、何人の人が信じ、何人の人が信じなかったかも分かりません。信じた人が、本当に信じたのか、本当に主の名を信じて命を得たのか、それは分かりません。しかし確実に言えることは、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを命がけで伝えようとした人たちが今日まで居続けたということです。

ですから、誰かによって伝えられ、信仰へと導かれた私たちは、喜びと感謝のうちに、伝えようではありませんか。「イエスの名によって命を受ける」ことの本当の意味を。罪の赦しによって与えられる本当の「平和」を。

戸に鍵を締め切っているようが、そこに主は現れ、傷跡の残る両手を広げて「平和があるように」と語りかけてくださる。そして、私たちに「信じなさい、そして、わたしの名を宣べ伝えなさい」と語りかけてくださるのです。

みなさんの周りには教会に誘うことが困難でも、ライフ・ラインなら伝えられるという方がいらっしゃるのではないのでしょうか。今年こそ、みなさんが祈りつつ思い描かれるあの方に、平和の君の誕生、クリスマスの本当の意味を伝えることが出来ますように。